補足資料) 最短2週間で復帰する場合の留意点

今般の改訂に伴い最短2週間で復帰する場合につき、運用上の補足説明をいたします。

「高校生・高専生を除く18歳以上のコミュニティレベルのプレーヤーは、プレーヤーウェルフェアを最優先としたメディカル体制を有するチームの管理のもとに、脳振盪の既往のない選手に限り、一定の項目*を満たせば1週間のレストと1週間のGRTPの最短14日で復帰可能、それ以外の選手は2週間のレストと1週間のGRTPで最短21日後の復帰」

*：一定の項目とは、以下3項目に当てはまる場合

1. 脳振盪の既往歴のない選手
2. チーム内でSCAT5/6のベースラインデータがあること
3. 脳振盪受傷後36-48時間後にSCAT5/6を実施し、ベースラインデータより悪化がないこと
(メディカルスタッフがSCAT5/6を実施する)

【運用する場合の留意点】

① 事前に脳振盪の既往の有無が確認できていること

*：脳振盪の既往とは、以下6項目に当てはまる場合

1. 脳振盪の受傷が過去3ヶ月以内にあった
2. 脳振盪の受傷が過去1年間で3回以上あった
3. 脳振盪の受傷がラグビー競技を始めてから5回以上あった
4. 衝撃によって脳振盪の発症閾値が低下した(医師の指摘による)
5. 脳振盪を起こし、心理的な問題を合併した
6. 過去に脳振盪を起こし、回復に時間がかかった(21日以上)

② SCAT5/6のベースラインデータが取得されていること

◆ こちらのデータがない選手は、最短2週間での復帰は不可

③ 復帰証明書に医師の証明が必要であること

◆ 復帰証明書には担当医師のサインが必要

④ 以下の資料を都道府県協会に提出すること(大会等については確認ください。)

- ◆ 脳振盪報告書、SCAT5/6の評価結果※、復帰証明書
- ◆ 判断内容はチーム(ドクター)の責任においてなされる

STEP6: 脳振盪の診断

検査項目	検査日時					
	/	:	/	:	/	:
症状の数(22)						
重症度の合計点(132)						
見当識(5)						
即時記憶		of 15 of 30		of 15 of 30		of 15 of 30
集中心力(5)						
神経学的評価	正常	異常	正常	異常	正常	異常
バランステスト(30)						
遅延再生		of 5 of 10		of 5 of 10		of 5 of 10

SCAT5/6はSTEP6(脳振盪の診断)のみをコピーして提出

左にベースライン、中央に受傷後、
右に36-48時間後のデータを記入する。

以上